

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0434 ◆◆◆

17/05/31

【 6 月は国際テロなど「地政学リスク」に要注意 】

明日から暦が 6 月入りするが、マーケットを取り巻く環境のみならず、重要なイベントが目白押しの一か月でまさに「波乱含み」となりそうだ。そのひとつは、利上げが確実視されている「米FOMC」になると思われるものの、それ以外でも先週レポートした「英国の解散総選挙」や「仏国民議会選挙」、あるいはトランプ米大統領の「ロシアゲート」問題に関連するコミー前FBI長官の議会証言が実施されるなど、気になる要因は数多い。

しかし、今回の当レターでは、前述したような要因は「敢えて」外し、マーケットへの直接的な材料ではない地政学リスクに主眼をおいた 2 つの「6 月の要注意ファクター」について、以下で簡単に解説してみたい。

<< ラマダン入りで、さらに高まる「国際テロ」警戒 >>

国際テロに対する警戒感が高まってきた。直接的なキッカケとなったのは、先日英国のコンサート会場で発生した死亡者だけで 22 人にも及ぶ自爆テロだが、先週末 27 日からサウジアラビアやエジプトなど多くの中東諸国などにおける「ラマダン(断食月)」が開始しており、新たなテロが起こりかねないとする懸念の声も聞かれ始めている。

「ラマダン」と自爆テロ、本来であれば直接的な関係などまったくないわけだが、一部シンクタンクの調査によると近年は「ラマダン期間中にテロが発生する」傾向が高いことは明白だという。実際、2015 年にはイスラム過激派組織ISが、インターネット上で、「ラマダン期間中のテロを広く呼びかける声明」を公開、それに呼応する格好でフランス、エジプト、クウェート、マリ、ナイジェリアでテロが発生した。また、昨 2016 年も同様で、さらに特筆すべきことはバングラデシュにおいて、日本人 7 人が犠牲になるという飲食店襲撃テロが起こったことだろう。いずれにしても、「日本人だから大丈夫」ということは、もはや通用しない状況にあることは明らかだ。

なお、在英国日本国大使館は 5 月 22 日に、「ラマダン月のテロについての注意喚起」とする内容を公表しているのだが、これが非常に興味深い。内容について一例だけ紹介すると、「テロはイスラム教徒が集団礼拝を行う金曜日がとくに要注意。しかもモスク等の宗教施設や人の集まる環境を狙って行われる傾向がある」との分析も指摘されている。6 月に一足早い夏休みを取り、海外渡航に出かけられる方などは是非とも参考にして、十分な注意を払っていただきたいと思う。

<< 北朝鮮の 6 次核実験、25 日が「Xデー」!? >>

恒例となっている当レターの月間見通しで、筆者は「毎年 5 月は国際的な重要事象が多発、とくに北朝鮮関連のニュースが多い」とレポートした(4 月 26 日付)。詳細はバックナンバーを参考にされたいが、その際指摘したように、何故か過去の 5 月に起こることの多い北朝鮮の蛮行は「弾道ミサイル発射」という形で今年も起こったことは周知のとおりだ。

さて、そんななか、実は足もとの 5 月に続き、来 6 月についても「北朝鮮の行動には要注意」との指摘が少なくない。

事実、今年の 4 月末、米CNNは「北朝鮮、6 月 25 日前後に 6 次核実験強行の可能性大」と報じている。また、その理由について、「専門家たちは北朝鮮の核実験やミサイル発射は周期があると口をそろえている。祝日や外国に何かメッセージを送りたいときだ」としたうえで、朝鮮戦争が起こった 6 月 25 日はとても重要な日であり、その前後に核実験が実施される可能性が高い、との見方を紹介していた。

これまで、「Xデー」とされた 4 月 15 日の「故金日成主席生誕 105 周年」、同 25 日の「朝鮮人民軍創建 85 周年」などは、なんとか無事に経過しており、今回も何も起こらないことを祈りたい。とは言え、最悪の事態についても、一応備えだけはしておいても損はない気がする。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

